



¡MÉXICO MÁXICO!

メヒコ マヒコ - 魅惑の国メキシコ - Mar. 2018



【Vol.7】メキシコの文化遺産マネジメント

同期たちとの集合写真@FAD



サン・カルロス芸術アカデミー

ソカロ裏手にあるサン・カルロス芸術アカデミー (La Academia de San Carlos) で、文化遺産の保存管理を学び始めました。この施設は UNAM 芸術学部 (FAD) が持つキャンパスのひとつで、大学院部門がメイン。アメリカ大陸初の芸術学院でもあり、過去にディエゴ・リベラ (Diego Rivera: 1886-1957) やホセ・クレメンテ・オロスコ (José Clemente Orozco: 1883-1949) といったメキシコ壁画運動を先導した芸術家達が学んだ場所でもあります。総勢 16 名のディプロマコースの同期は、INBA (国立美術研究所) の研究者や、学芸員・司書・大学講師・院生など多岐にわたるメンバーです。

授業は生徒間の発言・質問によって進むディスカッションがメイン。日本の受動的な講義に慣れている日本人としては、なかなか発言のタイミングが掴めず自己嫌悪になる日もしばしばです。他方、材料組成の授業では、劣化の仕組みに関連して化学用語が頻出。日本語とも英語とも似ていない初耳単語ばかりです。

そして覚悟はしていたものの、一番大変なのが、毎週 2-3 本の Lectura (読書) の課題がでること。興味を惹かれる論文なのでじっくり読みたいのですが、読む速度が遅いせいでまったく時間が足りません。毎回、消化不良ぎみでレポートを出すのが悔やまれますが、こればかりは積み重ね、毎日こつこつ読んでいきます。



版画の授業では日本のバレンも

ククルカン・ピラミッド



世界的な観光スポットが抱える問題

例えば、メキシコの世界遺産の中で最も知られているチチェン・イツァ遺跡 (Chichén Itzá) は、カンクンの国際リゾート開発と連動して 80 年に人気観光地へと成長しましたが、文化関係者からは揶揄的に “Exitoso (成功した) 場所” と言われています。その理由は保存修復にあり、美的景観が最優先されてセメント処置が行われた結果、観光資源としての価値はこの上なく高まりましたが、歴史的価値の保存という点からは座礁案件と見なされているためです。

通常、修復にはオリジナルに化学的影響を及ぼさない、原状回復できる媒材が選ばれます。セメントの場合、①硬化前に混じったわずかな塩分が長期間かけて膨張して内部劣化を引き起こす、②堅牢がゆえ、一部が壊れると周囲も影響を受けて全体的な破壊に繋がる、の 2 点が理由となり近年では適切な媒材とは見なされていません。

チチェン・イツァといえば、16 年秋にククルカン・ピラミッドの内部に第 3 の新たなピラミッドが発見されました。まだ残されている未知の情報を壊さないよう、メキシコの保存修復倫理や技術は持続可能な形で急速に進歩しています。

メキシコ流修復は小石を入れます



先生宅で終了パーティー！



日常スラングと波乱の CEPE テスト

今期は、CEPE クラスと並行して同期の韓国人とスペイン語試験 DELE の対策をスタートし、わからなさ加減に「¡Pinche español... (あ〜もう、スペイン語...!)」と愛憎入り混じる言葉を口走る日々でした。メキシコの感嘆詞や悪態のスラングは下品の王道をいくものがあるので、発するときは TPO の見極めが重要ですが、「¡Qué padre!» や 「¡Qué chido!» (=すごい!) あたりは毎日どこかしらで耳にするお馴染みフレーズ。男女共に使えるメキシコ安全スラングとしておすすめです。

今期の CEPE テストでは、前日にオーラル・テストのペアが変わったことで動揺し、テスト期間中ずっと「できない！落ちる！日本に帰国だ！」と騒ぎ続けました。最終的に友人&ルームメイトから“La vida tiene algunos tropiezos. Pero, ¡Levántate! (人生につまずきは付きもの。でも立ち上がれ!)”と激励(?)され、みんな人情深いなあ...とじんわりメキシコ生活を回想していたのですが、結果、奇跡的に進級点を頂くことができました。CEPE のテストは試験問題・試験官・教室どれをとっても当たり外れや相性がある印象を受けますが、どんな予期せぬ事態でも取り乱す必要がないよう、慢心せず勉強し続けようと誓った今期です。

CEPE の野リスふれあい空間



無限に食べ続けられるタコス



メキシコ流！屋台でのお作法

メキシコの路上屋台にはモクテスマの呪い (Maldición de Moctezuma)、いわゆる“食あたり”が潜っていますが、メキシコ料理の真髄は路上にあり。モクテスマを撃退してメキシコ料理を楽しみたいものです。例えば、タコス屋さんに置かれているピリ辛サルサやライムは味に変化をつけるだけでなく、殺菌効果も抜群。タコスに振り掛けるシラントロ (Cilantro: 香菜) や生玉ねぎのみじん切りも然りです。

トッピングは路上屋台のセーフティネットという持論を持つ私ですが、カットフルーツ屋さんでチリパウダーをかけられるのだけはまだ断固拒否してしまっています。店員さんからの冷たい視線を避けられる日は来るのでしょうか？

日本語教師のボランティア

2月より、UNAM の学生さん達に週1回4時間、日本語を教えています。入門クラスを担当し、〈あいうえお〉から勉強しているのですが、驚かされるのが“本音と建前”を知っていたり、休憩時間にスペイン語訳された日本のマンガを愛読していたりと、思わず質問せずにはいられない日本好きメンバーが揃っています。

メキシコが親日的な理由のひとつに、1897年に開始された榎本植民の影響で日系メキシコ人の割合が高いという点が挙げられますが、家系的に日本と関連がないメキシコ人でも、じつは幼少期の習い事で日本語学校に通っていたなど、日本文化に接する機会が多い環境がシティを中心に整っているように見受けられます。

日系スーパーで買える癒しパン♡

